

19年度発掘調査遺跡の紹介

にし 郷 遺 跡 (新潟市江南区茅野山3丁目2097番地1ほか)

西郷遺跡では国道49号亀田バイパスの4車線化事業(城所～茅野山間)に伴い、平成18年度から延4,450㎡について発掘調査を実施してきました。遺跡の時期は平安時代(約1,000～1,200年前)と弥生時代前期～中期(約2,400～2,000年前)に分かれます。遺跡の地層は地表から順に～層に分けられ、このうち層が平安時代、～層が弥生時代の遺物を含む層です。標高は、層が現地表面から約25cm下の0.5m、層が約2.1m下の-1.4m、層上面が約2.5m下の-1.8mです。弥生時代の層は複数ありますが、このうち遺物が多く出土するのは層と層の黒色砂層で、層が弥生時代中期、層が弥生時代前期と少量の縄文時代晩期の遺物を含みます。層で柱穴や土坑などの遺構を検出しました。層で検出された遺構の時期はおもに弥生時代前期と考えています。

層で出土した弥生時代中期の遺物には土器、石器、骨、炭化米などがあります。土器は地元の土器と共に北陸系・東北系が出土しており、当時これらの地域間に交流があったことがうかがえます。また、矢尻として使用された石鏃や装飾品である管玉が大量に出土しています。それぞれの未成品もあるので石器製作が行われていたのかもしれませんが、縄文時代晩期から弥生時代前期の層からは石鏃の出土が多いですが、層と異なり管玉やその未成品などはほとんど認められません。

弥生時代の調査成果として、以下の点があげられます。これまであまり遺跡が見つかることのなかった砂丘間低地の海拔0m以下に遺跡が存在したことから、攪乱を受けておらず、完全な形で保存されていました。このような事例は非常に珍しいことです。また、ひとつの遺跡で、縄文から弥生時代の遺物が連続的かつ重層的に出土する例は珍しく、これまで知ることでできなかった当該期の土器変遷の様子を明らかにできる可能性があります。層で検出された弥生時代前期の建物跡はこれまで発見例に乏しいことから、貴重な事例です。(土橋由理子)



層から出土した管玉・勾玉



層上面の遺構調査



層から出土した弥生時代前期の土器

たぶせやまざき
田伏山崎遺跡
 (糸魚川市大字田伏字山崎)

田伏山崎遺跡では、北陸新幹線および一般国道8号糸魚川東バイパス建設に伴い、平成18年度から発掘調査を行っています。18年度は、狭小な海岸平野に延びる細尾根上の尾根地区(古墳時代後期、標高約22~24m)と尾根地区の西の沢にある沢地区南(中世・古墳時代後期、標高約10~12m)の一部の発掘調査を行いました。今年度は、沢地区南の1,500㎡と沢地区北の500㎡について発掘調査を行っています。

6月上旬で、沢地区南の中世面は調査を終了しました。遺構は柱穴1基、ピット2基、杭列4基が検出されました。遺物は珠洲焼、天目茶碗などの陶器類が少量と、漆器椀、馬形、鳥形、糸巻きなどの木製品が大量に出土しています。今後は古墳時代後期の調査に入る予定です。

沢地区北(中世・古代・古墳時代後期・標高約9m)は、現在、中世から古代の面を調査中です。ここでは中世の珠洲焼、天目茶碗、平安時代の土師器椀・皿、須恵器、木製品などが多数出土しています。中でも特徴的なのは製塩土器が多数出土していることです。製塩土器は海水を煮詰めて塩を作るための素焼きの土器で、バケツのような形をしています。製塩土器の周辺には土坑や焼土があり、柱穴なども見つかっていることから、覆屋が立てられていた可能性があります。また、糸魚川市では初となる石銚(花崗岩製長4.1×幅3.9×厚0.6cm)が、1点出土しました。これは、平安時代の役人が着用したといわれるベルトの装飾品で、大変珍しいものです。このことから、役人が関わった製塩所だった可能性もあります。また、漁網の土錘も出土しており、漁村としての風景も垣間見えます。平安時代の海岸線は不明ですが、調査区は現在の海岸線から約700m山側に入ったところにあります。

今後の調査の進展により、集落の様相が明らかになるものと期待されます。

(佐藤友子)



石銚の表と裏



製塩土器出土状況



墨書土器「田」

桜林遺跡

(岩船郡荒川町大字金屋字桜林1372ほか)

桜林遺跡は荒川町金屋集落の西側、荒川左岸の沖積地に立地しています。調査期間は4月10日から6月4日までの約2か月間で、調査面積は700㎡です。日沿道に係る本遺跡の調査は平成17年から開始され、今回で3回目となります。

調査では古代の溝2条、中世の井戸9基、土坑2基、溝2条、ピット65基を検出しました。井戸の断面形状は漏斗形や円筒形などで、全て素掘りです。また、土層の堆積状況から人為的に埋めて廃棄した様子が確認できました。

遺物は古代の須恵器や土師器、中世の珠洲焼や漆器椀、石製品や板材が出土しました。いずれも破片で、出土量はテン箱に4箱と少量でした。現在は報告書刊行に向けての整理作業を進めています。

(大成エンジニアリング株式会社埋蔵文化財調査部 橋澤道博)



調査区東側の遺構検出状況(東方向から)



井戸(SE301)土層堆積状況(南方向から)

北前田遺跡

(上越市大字上中田字北前田472番地ほか)

北前田遺跡は古墳時代～古代の遺跡で、青田川右岸の自然堤防上に立地し、標高18.5～19mを測ります。遺跡の東側には旧河道と考えられる一段低い落ち込みが見られます。北陸新幹線の建設に伴い、4～6月にかけて2,500㎡を対象とした発掘調査を行いました。

遺物は調査区東側にある2条の自然流路(SD2・SD5)から多く出土しています。SD2の上層(黒褐色土)からは古墳時代の土師器、SD5の上層(黒褐色土)及び砂層を挟んだ下層(暗灰色土)からは古代の須恵器・土師器などが出土しています。

遺構は周辺と比べて標高のやや高い自然流路の西側で多く見つっています。掘立柱建物が3軒重複して検出されたほか、古墳時代の土師器が出土している土坑、溝などがあります。遺構の性格や年代については、覆土の特徴や出土遺物などを検討したうえ、今後明らかにしていきたいと考えています。(株)ノガミ 金内 元



調査風景



SD2出土土器

はち た ろう 八太郎遺跡

(岩船郡神林村大字上助淵字八太郎ほか)

八太郎遺跡は旧岩船潟北縁部にあります。この遺跡は丘陵間の谷部にあり、現在は水田となっています。発掘調査は日本海沿岸東北自動車道建設に伴い本年度4月から6月にかけて行いました。

調査では現在の水田から1.2メートルほどの深さで2筋の川の跡を確認しました。このうち東側の川には「L」字状に打ち込まれた杭列が見つかりました。

調査によって、川の一部を方形に掘り込み、杭に横木を組み込んだ水を溜めるための施設であることがわかりました。さらに上流側には粘土（写真上部黄色部分）を貼り、流れ込む水の量を調整した工夫がみられます。

遺物は木製品が多く、加工途中の材、櫛、箸状木製品が出土し、土器は中世の皿の底部が出土しました。遺物の様相から、この遺構は中世に使用されていたと考えられます。今後、杭の放射性炭素年代測定とあわせ、この遺構の年代を検討していきます。

現時点ではこの遺構が水を溜めて何に使われたのか、具体的な用途は解明できていませんが、当時の人々が使用した「水場遺構」として注目されます。

(株)シン技術コンサル 伊比博和)



「水場遺構」出土状況

埋文インフォメーション

第14回遺跡発掘調査報告会開催のお知らせ

第14回遺跡発掘調査報告会を下記のとおり開催いたします。今回は当事業団が平成17・18年度に発掘調査した遺跡のうち、5遺跡についてスライドを使った調査報告を行います。また、この5遺跡を含む12遺跡について出土品及び写真パネルの展示を行います。

なお、当日は糸魚川市教育委員会の発掘調査報告及び出土品展示もあります。

事前の申し込みは不要です。皆様のご来場をお待ちしております。

日時 8月26日(日)

会場 青海総合文化会館(JR青海駅下車徒歩10分、駐車場251台)

日程 9:00～

開場

10:30～12:00 遺跡発掘調査成果報告(糸魚川市教育委員会)

展示解説 第1回12:30～/第2回13:30～

13:45～15:45 遺跡発掘調査報告(大角地、延命寺、岩ノ原、山岸、田屋道)

* 詳細は当事業団ホームページをご覧ください。



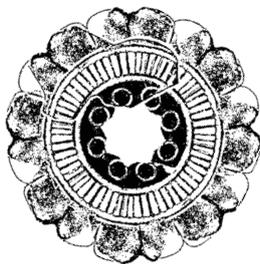
整理報告遺跡

寺前遺跡

(三島郡出雲崎町大字乙茂字寺前ほか)

遺跡の概要については、「埋文にいがた」No.58号でご紹介しましたが、今回は製鉄関連遺物について、ご説明します。製鉄に関連する確実な遺構は確認されませんでした。溶解炉の壁や鉄滓を中心に約100箱の遺物が出土しています。出土した層位は中世に属し、炉壁に付着した炭のC14年代測定では、11～12世紀前後の年代が得られています。それ以降も行われていたと考えられます。遺物の多くは、鑄型に鉄を流し込んで製品を作る鑄造に関するものです。中でも量の多いのは溶解炉の炉体破片です。炉体はスサ（モミ殻や稲藁）が多く入った粘土でつくられており、内面は高温で溶けています。円筒形で地面に直接据えられていたと考えられます。破片の大きさから、直径はおよそ50～70cmくらいであったと予想されます。この中に炭と製錬（砂鉄と炭を高温で熱し鉄をつくる）で得られた鉄を入れて、送風管（羽口）で風を送り、高温で熱し、鉄を溶かします。これを鑄型に流し込んで製品をつくっていきます。鑄型は外型と内型があり、その間に鉄を流し込むこととなります。また、溶鉄を流し込む小型の坩堝破片もあります。

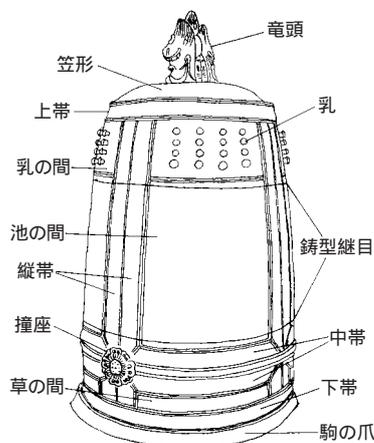
鑄型では梵鐘及び鍋、羽釜、仏具があります。梵鐘は一番下部の「駒の爪」、鐘を撞く部分の「撞座」、上部に突起状に付く「乳」、鐘を吊るす部分の「竜頭」の鑄型破片があります。駒の爪部分から推定すると直径は約38cmになると考えられます。撞座文様を推定復元すると外区複弁8葉で、その内側に圏線を有する雄蕊帯がめぐり、中心の中房には1+8の連子が配されます。現在類似の撞座文様があるか調べています。県内で中世の梵鐘鑄型が確認されたのはこれが初例になります。梵鐘は銅鐘が一般的ですが、鉄鐘の可能性もあります。鑄型はこわして製品を取り出すため、全て細かく砕かれてしまいます。ここで作られた梵鐘は近くの寺に収められたものと思われる。すぐ近くに多聞寺と言う寺があり、遺跡名（字名）が寺前（寺の前）というのも何か関連があるのでしょうか。



復元した撞座文様



梵鐘撞座鑄型



梵鐘各部位名称

坪井良平1970「日本の梵鐘」より

鍋や釜は、鑄型が逆さ状態で、底部分から溶鉄を流し込みますが、注ぎ口（湯口）部分が漏斗状の円錐形になっており、注ぎ終わった時に湯口部分にたまった溶鉄が円錐状に固まります。これを丸湯口鉄塊といいます。鑄造を行った証拠の一つです。寺前遺跡では複数出土しています。ここで作られた可能性のある鍋吊り手部分の破片もあります。

鑄造を行ったのは専門の鑄物師集団であり、どこから来たのかはわかりませんが、これらの製品を発注した有力者が寺前遺跡にいたこととなります。（高橋 保）



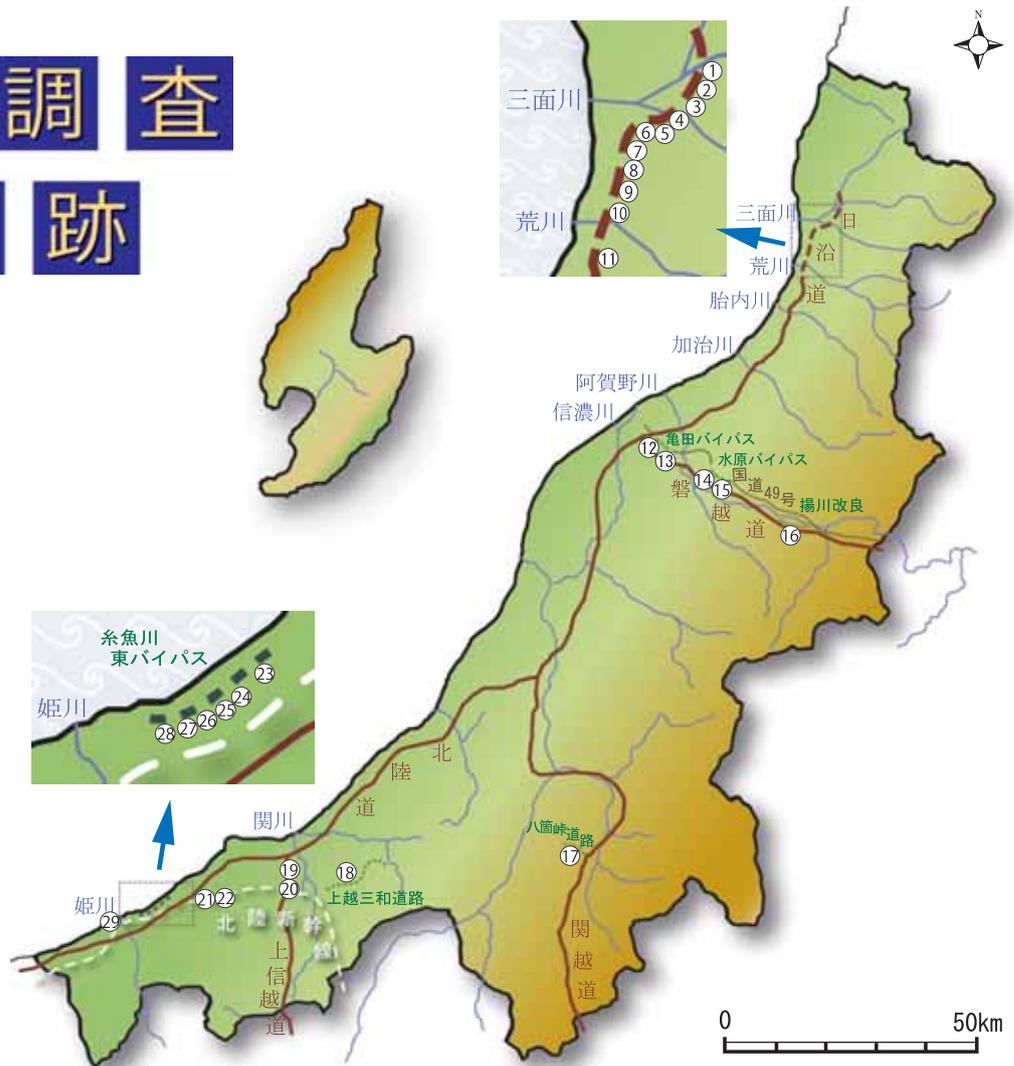
鍋破片(上:口縁、下:吊り手部分)



丸湯口鉄塊

平成19年度

発掘調査 遺跡



平成19年度は下表のとおり29遺跡で発掘調査を、また2遺跡の整理作業を行っています。「埋文にいがた」ではこれらの遺跡を順次取り上げ、紹介していきます。

番号	遺跡名	所在地	調査期間	時代	番号	遺跡名	所在地	調査期間	時代
1	やぶ谷地	村上市大字天神岡字谷地ほか	6~9月	縄文前期	16	ほづわか萩原	東蒲原郡阿賀町大字谷花字萩原甲555ほか	7~10月	縄文中期~後期
2	おたけと大館跡	村上市大字天神岡字大館ほか	4~9月	中世	17	壁木	南魚沼市野田字壁木820-1ほか	5~6月	平安・中世・近世
3	割割長割	村上市大字下相川字長割307ほか	4~11月	縄文後期	18	延命寺	上越市大字野田字延命寺258-1ほか	4~11月	古代
4	ひがしこや東興屋	村上市大字東興屋字宮ノ前120-4ほか	4~5月	縄文中期	19	北前田	上越市大字上中田字北前田500ほか	4~6月	古代
5	なかやましがし高山東	村上市大字仲間町字高山351ほか	5~6月 (終了いたしました)	縄文中期	20	北新田	上越市大字荒町字北新田313-1ほか	6~11月	古代
6	はち太郎八太郎	神林村大字上助洲字八太郎640ほか	5~7月 (終了いたしました)	古代・中世	21	かくだ角地田	糸魚川市大字小見字木ノ下132-1ほか	4~7月	古代
7	みやこ宮の越	神林村大字新飯田字宮ノ越14ほか	4~5月 (終了いたしました)	古代	22	たらい草	糸魚川市大字小見字横就258ほか	5~9月	古代
8	たむ屋道	神林村大字九日市字壁田1459ほか	10~11月	中世	23	極楽寺	糸魚川市大字田伏字高畑ほか	7~10月	中世・近世
9	くぼた窪田	神林村大字南田中字窪田1252ほか	10~11月	古代・中世	24	くぼた深谷	糸魚川市大字田伏字深谷ほか	4月 (終了いたしました)	縄文前期
10	まいた西部 (05北區南側)	神林村大字牛屋字西部1192ほか	4~11月	古代	25	やまきし山岸	糸魚川市大字田伏字山キシほか	4~11月	平安・鎌倉
11	さくらばやし桜林	荒川町大字金屋字桜林1372ほか	4~5月 (終了いたしました)	古代・中世	26	たふせやまき田伏山崎	糸魚川市大字田伏字山崎ほか	4~8月	古墳・古代・中世
12	はしろう西郷	新潟市江南区茅野山3丁目西郷2097-1ほか	4~6月 (終了いたしました)	弥生・平安	27	たふせやまき前波南	糸魚川市大字大和川字前波ほか	4~7月	弥生・古代・中世
13	ないぞう大蔵	新潟市江南区茅野山3丁目大蔵2096-4ほか	6~7月	古代	28	ちくたんだみなみ六反田南	糸魚川市大字大和川字六反田ほか	4~11月	古墳
14	きつねづか狐塚	阿賀野市大字熊居字狐塚793ほか	9~11月	弥生・古代	29	すざわかくら須沢角地	糸魚川市今村新田ほか	8~11月	古代
15	かのえづか庚塚	阿賀野市大字寺社字庚塚3221-1ほか	8~10月	古代					

平成19年度 整理作業遺跡

遺跡名	所在地	関連事業名	調査年度	時代
てらまさ寺前遺跡	三島郡出雲崎町大字乙茂字寺前	国道116号 出雲崎バイパス	S63年 / H1・2年	縄文後・晩期、古代・中世ほか
のち野地遺跡	胎内市大字八幡字野地	日本海東北自動車道	H17年	縄文後~晩期

埋文インフォメーション

埋蔵文化財センター展示品入れ替えのお知らせ

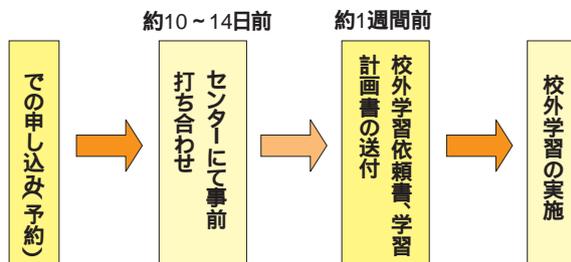
「平成17年度発掘調査の出土品」を下記のとおり館内に展示しています。この機会に県内各地から出土した貴重な資料をぜひご覧下さい。

期間	遺跡名	所在市町村	時代
4 ～ 9 月	大角地遺跡	糸魚川市	縄文早期・前期
	上野東遺跡	阿賀町	縄文前期、平安
	現明嶽遺跡	阿賀町	縄文前期・後期
	土居下遺跡	胎内市	古墳前期
	北沖東遺跡	南魚沼市	古墳後期
	狐宮遺跡	上越市	縄文草創期・後期・晩期、古墳中期、平安
	鴨深甲遺跡	阿賀野市	室町
10 ～ 3 月 (予定)	野地遺跡	胎内市	縄文後期・晩期
	道下遺跡	胎内市	縄文晩期
	中曽根遺跡	荒川町	弥生中～後期、奈良、平安
	道端遺跡	荒川町	弥生中期、古墳後期
	西部遺跡	神林村	平安、鎌倉、室町
	用言寺遺跡	上越市	鎌倉、室町



校外学習(センター見学、体験学習)の申し込みについて

毎年3,000人を超える小・中・高校生が、社会科や総合的な学習の時間の一環として当センターを訪れ、館内の展示品を見学したり、遺跡発掘の現状や遺物整理の様子を学習しています。また、体験学習(煮炊き体験・石器体験・火おこし体験・勾玉作り体験・土器文様付け体験など)に取り組む学校もたくさんあります。当センターでの校外学習の申し込みは次のようになっています。



- * 体験活動はいくつかの組み合わせが可能です。
- * 施設の都合上、40名を超える場合は2グループに分かれて活動してもらう場合があります。

なお、事業団職員が遺跡から出土した土器や石器などの遺物を持って学校に向き、授業のお手伝いをする「出前授業」も行っています。詳しくは当事業団ホームページまたは下記担当までご連絡下さい。

【担当】(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団調査課普及班 入江清次



県内の遺跡・遺物57

かきざきこぼ **柿崎古墓** (平成14年県指定) 出土品一括5点、つけたりもくたんかくもっかんぼ 附 木炭槲木棺墓

遺跡所在地：上越市柿崎区大字上直海字新保

柿崎古墓が発見された新保遺跡は高田平野の北東部、旧柿崎町にあり、旧吉川町との境界近くに位置します。発掘調査は平成9年と10年に2度行われました。古墓は集落遺構群(掘立柱建物、溝、井戸など)から離れた場所ので1基検出されました。もくたんかくもっかんぼ 木炭槲木棺墓と呼ばれる構造で、遺体を収めた木棺を木の箱(槲)で囲い、木棺と槲の間にすきまなく炭を詰めていました。9世紀後半頃に築かれたもので、墓の規模は掘り形が約3.4×2.4×0.6m、木炭槲が約2.4×1.3×0.3m、木棺が約1.6×0.4mでした。

木炭槲内部には、須恵器壺2点(北西・南西)、灰釉陶器壺1点(北東)、灰釉陶器瓶が1点(北東)、灰釉陶器壺1点(南東)が四隅に置かれていました。南東隅の壺の底面には、「石神」と墨書されています。木棺内の北側底面近くからは、径14mmの扁平な水晶玉が出土しました。遺体の副葬品と考えられます。

通称「柿崎古墓」と呼ぶこととしました。このような木炭槲木棺墓の類例は全国でも京都市の2例に次いで、3例目となります。『しよくにほんぎ続日本紀』承和9(842)年7月15日条にみられる「棺・槲をかさね、松の炭をめぐらす」(嵯峨上皇の喪葬に関する遺詔)の埋葬の例によく似ています。

壺、水晶玉の5点は平成14年に県有形文化財考古資料に(墓は型取りされ、つけたり附として)指定されました。

現在、墓は県立歴史博物館に展示されています。



1 古墓検出状況



2 四隅に副葬された土器



3 古墓から出土した鉄釘



4 木棺内出土の水晶玉

埋文にいがたNo 59

発行 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒956-0845 新潟市秋葉区金津93番地1
TEL (0250) 25-3981
FAX (0250) 25-3986
e-mail: niigata@maibun.net
URL: http://www.maibun.net
印刷 阿部印刷株式会社